

農業用ため池の現地研修会を開催しました

農業用ため池は農業生産における重要な施設の一つですが、豪雨等の自然災害で被災した場合は、営農活動のみならず、地域住民の安全にも影響を与える可能性があります。

このことから、7月1日の「国民安全の日」に合わせ、富山県内の主要な農業用ため池の一斉安全パトロールを実施し、災害の発生防止と地域の自主防災意識、さらには安全管理意識の向上を図っています。

砺波農林振興センターでは、農業用ため池の管理者を対象に、ため池点検方法の再確認や管理技術の向上を目指し、6月28日（金）に南砺市の打尾谷ため池にて現地研修会を開催しました。

当日は小雨のちらつく中であつたものの、砺波市、南砺市のため池管理者や土地改良区職員など、35名が参加し研修を受けました。

最初のあいさつでは、今回の研修会場となった打尾谷ため池の管理者（打尾谷ため池管理委員会）である高田委員長から、①ため池の築造経緯、②ため池の管理方法等が説明され、次に県担当者から、①ため池の点検方法の再確認、②ため池被災時の対応方法紹介、③ため池新法施行に伴う管理者登録等について説明がありました。

その後、点検チェックリストに基づき、打尾谷ため池をモデルとしてため池の点検を実施しました。



ため池管理方法の説明（ため池管理者）



ため池被災時の対応方法紹介（砺波農林）

<打尾谷ため池の概要>

- ・貯水量 79千m³
- ・受益面積 148ha
- ・堤高 18.6m
- ・堤長 98.9m